

## ◆ 今週のコメント

- 急性脳炎の報告が、1例(0歳, 男児)あります。本年の1例目の報告で、病原体は、B型インフルエンザウイルスです。急性脳炎は、平成15年11月以降、全数把握対象感染症となっています。

平成23年の全数把握感染症の類型別月別発生状況を下記ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

- 最新週の集計表及びグラフ(全数把握感染症の「類型別月別発生状況」一覧)  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000065390.html>

## ◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、2.93(196例)で、第11週以降、減少を続けています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 2例, 肺外結核 なし, 潜在性結核感染者 3例), (喀痰塗抹陽性 1例)  
【1月以降の累積報告数 88例(肺結核 46例, 肺外結核 19例, 潜在性結核感染者 23例), (喀痰塗抹陽性 26例)】
- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例(第13週分)【1月以降の累積報告数 4例】
- 五類:急性脳炎(病原体:B型インフルエンザウイルス) 1例(第13週分)【1月以降の累積報告数 1例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	2.93	196
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.05	322
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.75	30
	③ 水痘	0.58	23
	④ 突発性発しん	0.43	17
	⑤ 伝染性紅斑	0.33	13
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

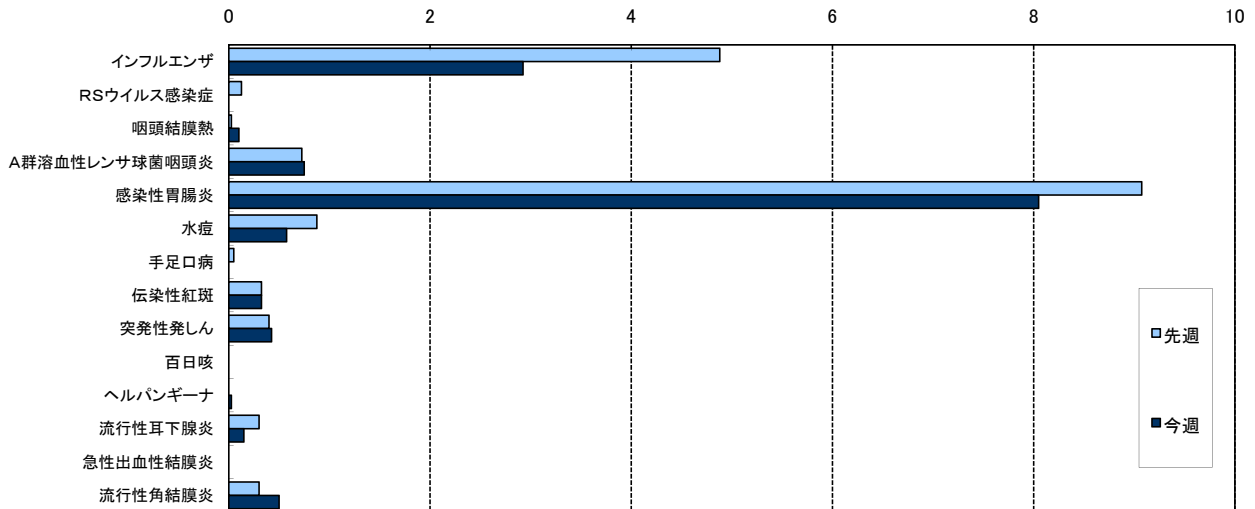
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注)京都市のデータは、平成23年4月14日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

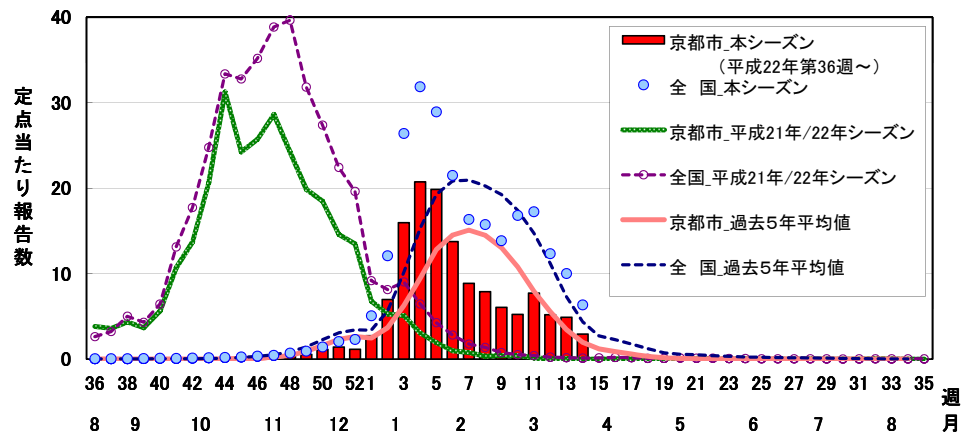
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第14週)と先週(第13週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

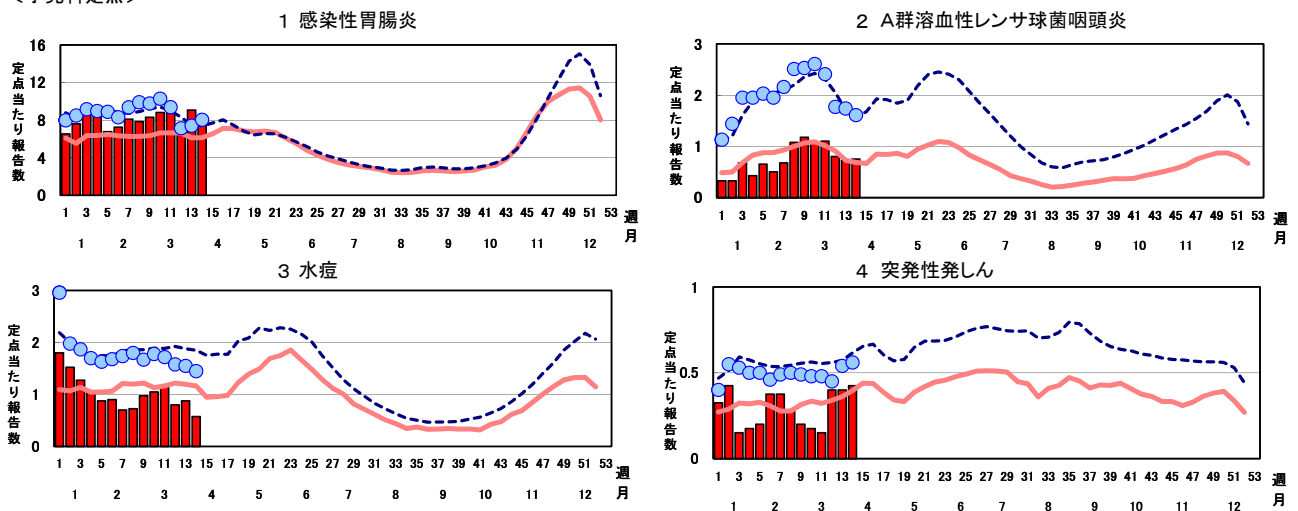
週	報告数(例)
第10週	350
第11週	517
第12週	348
第13週	327
第14週	196
累積報告数 (第36週以降)	9,003



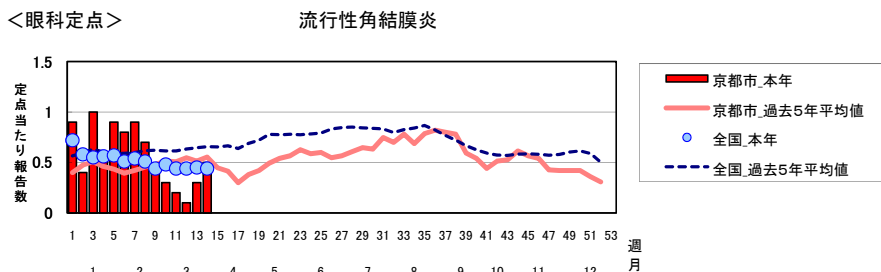
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



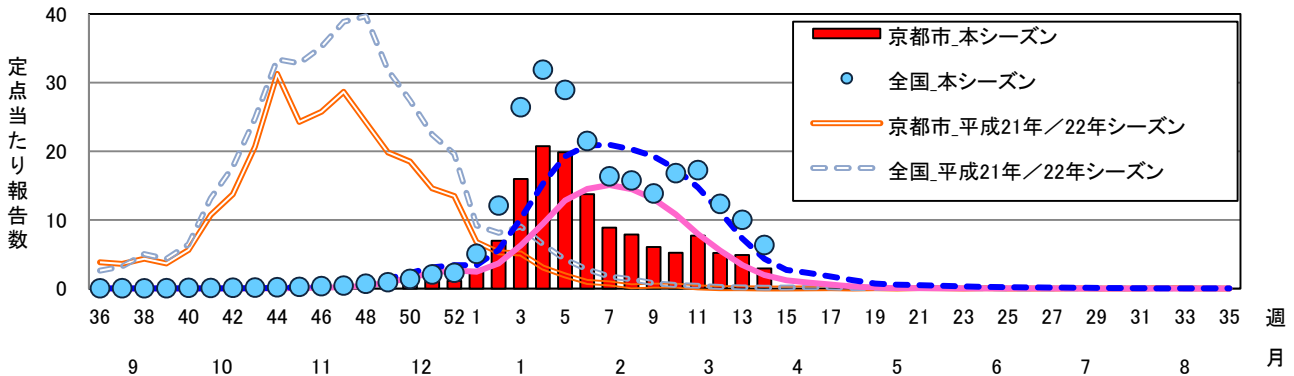
## 第14週(4月4日～4月10日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、2.93(196例)で、第11週以降、減少を続けています。全国及び近畿6府県でも、和歌山県を除き、4週に渡って減少しています。本市における報告を年齢群別にみると、特にこれまで報告の多かった5～14歳の年齢群で減少傾向が顕著です。

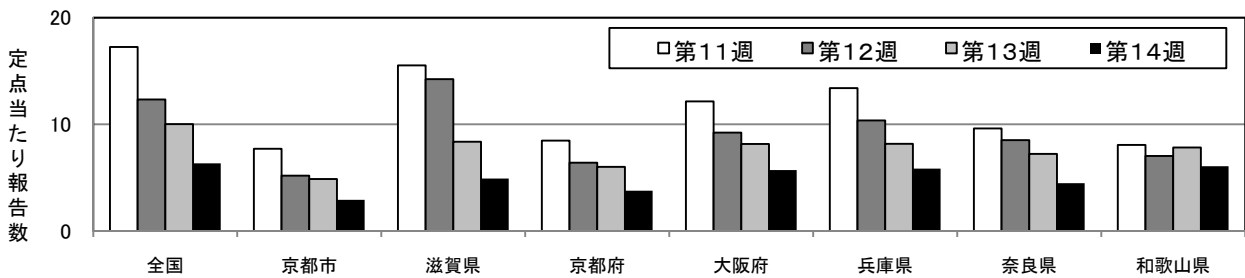
平成22年第44週(11月)以降の全国のインフルエンザウイルス検出状況を見ると、12月以降増加していたAH1pdmが急速に減少し、代わってAH3型、B型の割合が増加しています。

また、京都市衛生環境研究所では、平成23年4月13日、本市における初めてのオセルタミビル(商品名タミフル)耐性株を検出しています。

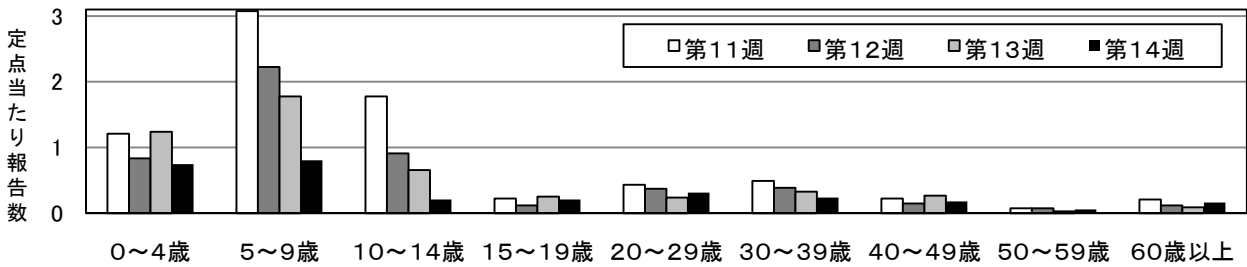
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



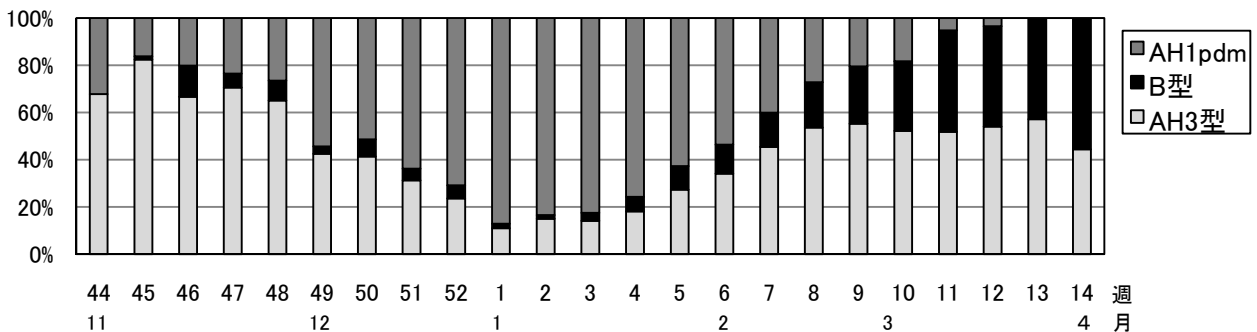
本市及び近畿6府県の定点当たり報告数の推移



年齢群別 定点当たり報告数の推移(京都市)



全国のインフルエンザウイルス検出割合(平成22年第44週～)



病原微生物検出情報より(平成23年4月15日現在)